

彦根市立城北幼稚園紹介



①園の畑で一年間通して野菜を育てます。収穫すると、みんなで食べたり、はしの部分やつる等使って遊んだりします。

「わあ、お芋見つけた。」



「このつるで遊ぼう。」
「綱引きだ」「よいしょ、
よいしょ」



②一年間通して、5歳児はキッズサッカーに参加します。滋賀大学のサッカー部の人と一緒にゲームをしたり、サッカーをしたりして体を動かす楽しさを味わいます。

「今度はゴールを決めるよ」

③年間通して、城北の自然に親しむ機会を持ち、地域のよさに気付けるようにします。

「田んぼは気持ちいいね」



④地域の方と交流します。小学校のお兄さんお姉さんに絵本を読んでもらったり、地域のおじいちゃんおばあちゃんと一緒に遊んだりします。

「こんにちは」「一緒に遊んでください」

園教育のよりどころ

- * 教育基本法、学校教育法
- * 幼稚園教育要領
- * 滋賀県学校教育の指針
- * 彦根市学校・園教育の指針

城北幼稚園の教育理念

幼児は生来、自ら周りに働きかけようとする。だから、幼児が興味を持つように適切な環境を積極的に用意し、遊びをとおして体力、知力、社会性を一体的、総合的に育てていく。

幼児期は依存から自立に向かう時期である。だから、子どもはよい子になろうとしていると信じ、保護者と連携して、子どもが安心し自信をもつ基盤をつくる。また、初めて集団の中に入り、自己中心から仲間との共存に向かう時期であるから、教師の適切な援助のもとで、集団での生活や遊びをとおして、他の人との関係をつくる力を育てていく。

子どもの実態

家庭の愛情を十分に受け、明るく伸び伸びしている。個人差が大きい。

保護者・地域の願い

幼稚園教育への期待が大きく、協力的である。家庭教育への考え方が幅広い。思いやりの心、自分のことは自分です、自分の思いをしっかりと伝える、挨拶、礼儀、等を重視している。

城北幼稚園教育目標

自ら周りに働きかけて考えようとする子、自他の気持ちを考えてよい子になろうとする子、心と体をたくましくしようとする子を育成する。

じょうほくのよい子

わたしたちは、

じぶんでみつけ

かんがえます

見つけ疑問をもつ。試し工夫する、イメージを豊かに描く

わたしたちは、

ひとのきもちを

かんがえます

自他の気持ちを考える、心を伝えあう、よい子になろうとする。生き物や周りの物を大切にする。

わたしたちは

こころとからだを

つよくします

体を動かすのが好き、自分のことは自分です。挨拶をする。我慢して続ける。

めざす教師像

- ・子どもはよい子になろうとしていると信じる教師
- ・教育への情熱と誇りをもつ教師
- ・子どもに共感し抱きしめる教師
- ・保護者とともに悩み喜ぶ教師

今年度の重点

- 1 自ら考え、行動し、表現する力を育成する。
 - ・ 自然に触れて遊んだり、身近な物で全身を働かせて遊んだりして、自ら考え、行動する力を育てる。(体験活動の重視)
 - ・ したこと・感じたこと・思ったことを言葉で伝え合う楽しさを味わわせ、基本的なコミュニケーション能力を高める。(話す場、話し合う機会を増やす)
- 2 やさしさ、柔らかさ、共感、感動する心などの豊かな心を育成する。
 - ・ お話や絵本を読み聞かせ、夢を描き、イメージを豊かにさせる。また、お話に共感、同化させる中で優しさ、正義感など豊かな心を育てる。(読み聞かせ)
 - ・ 自分のイメージを絵に表現したり、歌を楽しんだりさせて、豊かな心を育てる。
 - ・ 恵まれた自然の中で、身近な植物や小動物に触れさせ、世話をさせることにより、慈しむ心や命を大切にする心を育てる。(年間の栽培、飼育)(収穫祭)
- 3 他人と共に遊び、協力して生活することをとおして、人間関係力を育成する。
 - ・ 主張の対立を解決させる過程で互いを理解したり、人間関係をつくったりする力を育てることにより、心のつながりのある集団づくりに努める。(学級経営)
 - ・ 異年齢、中学生、高齢者、地域の人々との交流を深め、相手を理解し、親しむ心を育てる。(交流活動の増加)
 - ・ 特別支援教育についての啓発に努めるとともに個別の指導計画を作成し、専門機関との連携を図ることにより成長を支援する。
 - ・ 集団行動の美しさ、力強さに気づかせて、集会で静かに聞くなど、集団生活に必要な態度を育てる。
- 4 たくましく生きるための健康的な生活態度や体力を育成する。
 - ・ 安全で健康的な生活のための基本的な生活習慣を家庭と連携して育てる。また、PTA とともに、地域の教育力を高める。(月目標の設定)
 - ・ 一園一約束として、「スリッパをそろえる」に取り組む。
 - ・ 全身を使う多様な遊びや生活リズムに合わせた運動を多く取り入れ、器用さ、柔らかさ、リズム感などを育て、活力を育む。
- 5 希望をもって就学できるよう、小学校と協力、相互理解に努める。
 - ・ 5歳と小5との交流を深めることにより、小学校に親しみ、安心感を持たせる。
 - ・ 教職員の研修の交流を深めることにより、相互の教育の理解を深め、子どもが希望、自信と適度な緊張感をもって、就学できるようにする。

学年・学級の目標

学年・学級の重点

園内研究・研修

(1) 研究主題

—身近な環境の中で遊びながら、
物の質、変化、数量形に興味関心をもち、遊びを深める。—

(2) 主題設定の理由

子どもは、本来見たがりや知りたがりや試したがりやであり、好奇心が旺盛な存在である。自分の周りに面白そうなものを見つけるとすぐに手を伸ばし触れようとする。そして、遊びとして物の質、物の変化、物の数量形を探求し、総合的、一体的に学んでいく。さらに、学んだことを生かして、遊びをより深め、楽しさ、充実感を味わう。幼児期においてこのように環境を探り、環境を生かして遊ぶ体験を重ね、知的世界を広げることは自ら考え判断し、行動する力を育成し、生きる力の基礎となると考える。

そこで、今年度は子どもが身近な環境や事象に興味関心を持ち、遊びの中で物の質、変化、数・量・形に気付いたり、遊びや生活に生かすようにするには、どのような環境構成をすればよいか、どのような指導をすればよいかを研究していきたい。

(3) 研究仮説

子ども達が、物の質、物の変化、物の数量形に興味を示すであろうと思われる環境構成をしたり、教師が指導したりすれば、物とかかわって遊び、さらに学んだことを生かして遊びをより深め、楽しさや充実感を味わうであろう。

(4) 研究内容

- ① 日常保育の中で子ども達が、物の質、物の変化、物の数量形に興味を持ち、遊びを深め、生かす姿を記録し発達段階を考察する。
- ② 子ども達が「なんだろう」「どうして」と興味を示し、自分で考えていけるための環境構成をどのようにしていけばよいか研究保育を通して考えていく。